

第 25 回揮発性有機化合物（VOC）排出インベントリ検討会議事要旨

1. 日時 平成 26 年 3 月 20 日（木） 10：00～12：15

2. 場所 主婦会館プラザエフ 7F 会議室「カトレア」

3. 議事

（1）平成 25 年度 VOC 排出インベントリ検討会報告書(案)の検討、承認

（2）その他

4. 出席者

委員：浦野委員長、阿部委員、池田委員、石井委員、小野委員、菊田委員、桐明委員、

矢野氏（久保田委員代理）、南齋委員、浜井委員、前野委員、山口委員

環境省：渡辺課長補佐、中島課長補佐、永井係員

事務局：株式会社 旭リサーチセンター

5. 議事内容

議事 1. 平成 25 年度 VOC 排出インベントリ検討会報告書(案)の検討

事務局より資料 1「本年度の改善検討結果」、資料 2「発生源品目別計算式一覧表」の説明があり、以下の質疑があった。

- 発生源別/コーティング溶剤の推計では、大手企業は基幹事業業界の自主行動計画に参画し、日本ポリエチレンラミネート製品工業会で捕捉されるのは中小企業のため、捕捉率が低くなる事由はわかるが、その捕捉率で割ると、基幹事業業界の自主行動計画との重複にならないかとの質問があり、事務局より重複はない旨の回答があった。

- 発生源別/ゴム溶剤のように、最近の組成が明らかにされないものについては、「国」の費用で分析したらどうかとの提案があり、環境省より、検討課題としたい旨の回答があった。

- 発生源別/食品等（発酵）について、焼酎の排出係数を変更することの正当性は理解されたが、この変更に伴う量的な影響は大きく、遡って修正すべきか、また、一般的に推計方法を変えたことに伴う遡及の原則について論議された。遡及の原則については、正しいことであれば遡及すべきとする一般論と、事務的な煩雑さを考え、ある量的目途（例えば、基準年総量の 1/1000 程度）を設定して事務処理を行うなどの案が出された。遡及原則については次年度への課題とし、今年度は焼酎の排出係数変更に伴う遡及のみを実施することにした。

- 発生源別/ドライクリーニング溶剤について、基礎データの出典の変更は推計方法の変更であり、「本年度の改善検討結果」に追記するよう指示があった。なお、今年度は遡及を行わずに注記するだけとし、来年度以降遡及する方向とした。

- 発生源別/食品等（発酵）/スピリッツ類のエチルアルコール含有率について、現在 40%標準含有率を適用しているが、度数の減少の傾向があり、情報収集し次年度に活かすよう、提言があった。

事務局より資料 3「推計結果と変動要因分析」の説明があり、以下の質疑があった。

- 工業統計・出荷額を配分指標に使う際、“X”（秘匿）を 0 と扱うのは避けたいので、次年度は PRTR のデータ等で補正して推測するなどの工夫をすることの指示があった。

- 推計手法については、使用量などを推測し想定排出係数を乗ずる排出係数型(A)や業界の自主行動計画を捕捉率で割り返して全国 VOC 排出量を推計する自主行動計画型(B)などがあり、2つの推計手法は性格的に異なり、同じテーブルの議論にはなじまない。(B)については、業界団体として背後にある事情、意見などを言えるが、(A)については、業界団体としては客観的な立場ではない。インベントリのとりまとめには、明示して表記することにした。
- 地方自治体にとって、都道府県別 VOC 排出推計は重要な管理指標で、配分指標の名称だけでなく実際の配分数値を開示してほしい旨の依頼があり、調査業務報告書に掲載することにした。
- PRTR 届出数値は推計や配分に多用されているが、VOC 排出推計と年次変化が同じ傾向を示しているか、来年度以降は注意して使用することにした。

議事 2. その他

(1)「施設別推計方法の試案」について

提案された推計方法は検討課題が多く、検討会として承認されなかった。

(2)今後のスケジュール

報告書(案)と議事要旨については、3月25日までにコメントの回答をほしい旨、事務局より要望があった。

環境省より、VOC インベントリ調査は継続見込みなので、今後ともよろしくご配慮願いたい旨の挨拶があり、終了した。

< 配布資料 >

- 資料 1 VOC 排出インベントリ推計における本年度の改善検討結果(案)
- 資料 2 VOC 排出インベントリ・発生源品目別計算式一覧表(案)
- 資料 3 VOC 排出インベントリ推計結果と変動要因分析(案)
- 参考資料 1 平成 25 年度 VOC 排出インベントリ検討会報告書(案)

以上